

～未来をつくる子どもたちの豊かな心をはぐくむために～

道徳のとびら



日々繰り返し営まれる家庭生活や学校生活。その中では、うれしかったり、楽しかったり、喜んだり、悲しんだり…といった子どもたちの様々なエピソードが日々繰り広げられています。一つ一つのエピソードには、一見見逃してしまいそうになりがちですが、丁寧にしてみると、子どもたちの豊かな心を育むためのきっかけが見え隠れしています。

上の4枚の写真それぞれには、どのようなエピソードがあり、子どもたちは何を考え、思い、感じているのでしょうか。また、子どもたちに豊かな心を育むために私たちは何をすべきでしょうか。

どうぞ、この「道徳のとびら」を手にとり、やさしく開いてください。そして、私たちの目の前で頑張る福島の子どもの豊かな心を育むため、学校、家庭、地域で何をすべきか、この機会に考えていきましょう。



福島県教育委員会

見て、読んで、感じて、みんなの思い、考えを!!

～とびらの写真のエピソード紹介～



題名「郷土愛について考える」

南相馬市立原町第三中学校

生徒たちは郷土で誇れるところや改善が必要なところを考え、ワークシートに整理し、どうすれば郷土がよりよくなるのかをペアで話し合いました。自分の思いを友達に伝える生徒。うなずき、相づちをうちながら話を聴く生徒。友達の考えに自分の考えを付け足して話す生徒。そこには、相手の考えを認め、共感したり新たな考えを生み出そうとしたりする姿が見られました。その後、地域のゲストティーチャーから郷土に対する思いが詰まった話を聴き、より深く郷土について考えることができました。



題名「『保護者参加型』の授業をつくる」

伊達市立大田小学校

総合的な学習の時間で、「家族の仕事」をテーマにインタビューを行いました。保護者が子どもに説明することで、自分の仕事を見つめ直すきっかけになること、一方、子どもにとっても、身近な家族の仕事について知ることはもちろん、「働くこと」について理解したりコミュニケーション能力の向上を図ったりできると考え、保護者参加型の授業を設定しました。この授業が、子どもも大人も自分と向き合い、振り返る大切な時間になりました。



題名「今日の3年4組が一番輝いていました！」

棚倉町立棚倉中学校

5月に行われた校内体育祭での結果発表での一コマ、「総合優勝4組！」の発表を聞いた歓喜の瞬間です。体育の時間では技術的なことを確かめ合い、学級活動では、走順を決めたり、作戦を立てたりしました。話し合いながら運動が苦手な生徒の配置や男女差などを考えて毎日練習しました。道徳の時間では「勝ちにこだわるか…」「みんなが仲良く、良い思い出をつくれればよいか」など議論しました。「やっぱり勝ちたい。優勝したい!」と言った生徒たち。精一杯活躍する姿に感動しました。



題名「介護福祉施設現場実習で学んで」

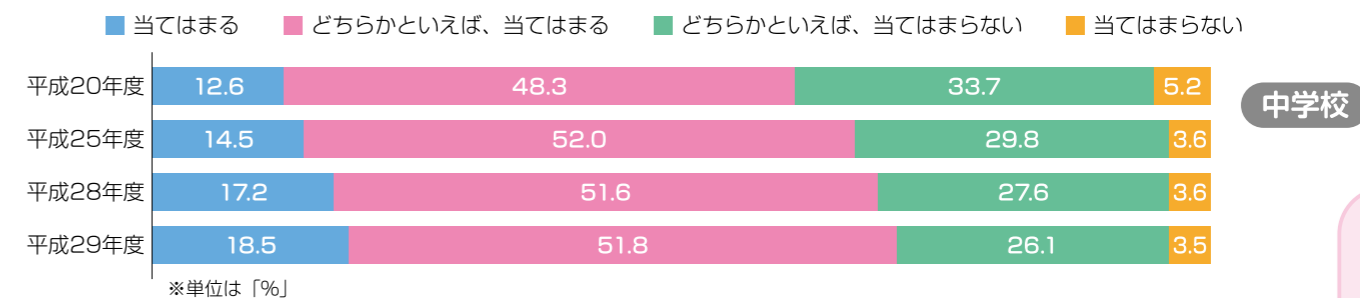
県立小野高等学校

介護福祉施設現場実習で利用者さんに口腔ケアを行っているところです。口腔ケアというのは、簡単に言えば歯磨きのことです。口腔ケアは、清潔にするためだけでなく、誤嚥性肺炎を予防するためにも必要なことです。授業で口腔ケアの大切さは習っていましたが、実際に自分が口腔ケアを行ったことがなかったので、今回の経験をとおして改めて口腔ケアの大切さを実感しました。私は、高校卒業後、県内の福祉施設に就職したいと考えています。そのために現在福祉の勉強に取り組んでいます。これからも人の役に立つ介護福祉士を目指して実習や勉強を頑張っていきたいです。

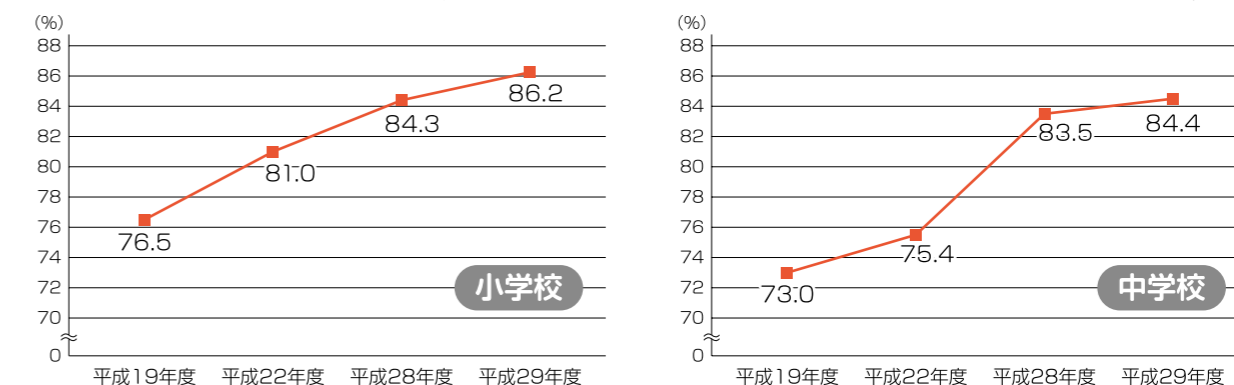
データに見る福島の子どもたちの道徳性

8月に、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。この調査では、子どもたちの学習状況を把握するため、「質問紙」による調査を実施しており、その中には、子どもたちの道徳性に関する調査も含まれています。その中から、本県教育の指針である「頑張る学校応援プラン」のバックデータ集にも掲載されている「挑戦」「親切」「自分のよさ（自己肯定感）」の3つを抜き出し、過年度の調査結果と比較してみました。

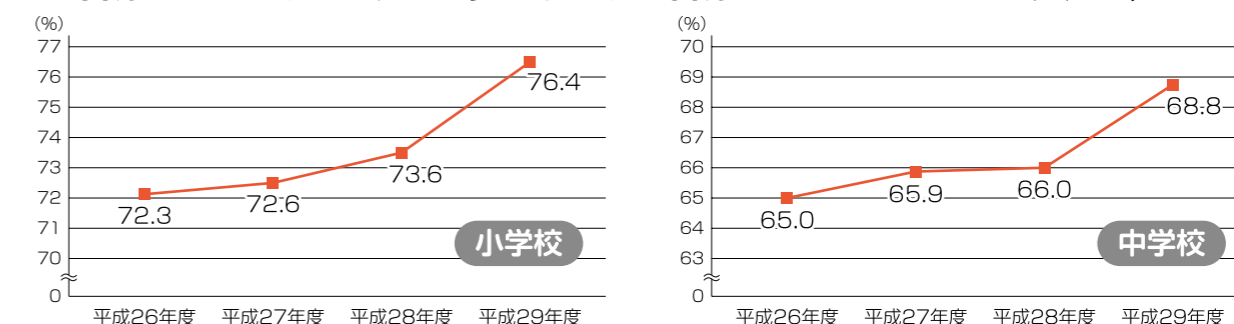
1 チャレンジする福島の子どもたち～難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか？



2 人のために生きたいと願う子どもたち～人が困っている時、進んで助けていますか？



3 自分のよさを感じている子どもたち～自分にはよいところがありますか？



※「2」「3」の数字は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計

どの設問でも、年々肯定的な回答が増加しています。

「特別の教科 道徳」がいよいよ始まります。

小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、今までの「道徳の時間」が教科化され、「特別の教科 道徳」となり、学習の充実が図られます。大きな変更点は、次の3点です。

① 教科書が導入されます。

教科書が導入され、学習内容の充実が図られます。「その年齢ならではの」子どもたちの悩みや葛藤を取り上げたり、「情報モラル」や「人権問題」「環境問題」といった現代社会が解決すべき課題を数多く取り上げたりして、子どもたちに「生きる力」をはぐくんでいきます。

② 「考え、議論する道徳授業」の実現をめざします。

「考え、議論する授業」めざして、授業の充実が図られます。各学校において、子どもたちが、現在の自分の心を見つめ、どんな自分になりたいか、なりたい自分を思い描くことができる授業づくりをめざしています。

③ 評価が導入されます。

子どもたちの道徳の授業に対する学習の状況や道徳性の成長の様子についての評価が実施されます。この評価は、子ども一人一人を受け止めて認め、励ます意味で実施され、数値や「○、△、×」などの形では行われず、記述式で行われます。また、その評価は入試等で活用しないこととなっています。



【特集】「家庭」「学校」が連携して育む、子どもたちの豊かな心



「みんなでどうとく」（道徳教材の親子読書）のすすめ

～喜多方市立駒形小学校（会津地区道徳教育推進校）の取組から～

平成29年度会津地区道徳教育推進校の喜多方市立駒形小学校では、文部科学省より発行されている「私たちの道徳」を活用して、親子で一緒に道徳教材を読み、話し合う機会を設定する、通称「みんなでどうとく」（道徳教材の親子読書）を実施しています。

「私たちの道徳」「ふくしま道徳教育資料集」や道徳の副読本は、それぞれの学年のお子さんの発達の特長や課題を踏まえており、さらにストーリーも簡潔で分かりやすく、親子読書には最適です。テーマを設定して、親子で話し合う場を設定すれば、親子読書の絶好の機会となります。何よりも親子の絆を深め、さらに学校と家庭が連携することができ、子どもたちの豊かな心を育むことができます。駒形小学校の事例を掲載します。秋の夜長に「みんなで どうとく」親子読書、是非おすすめです。

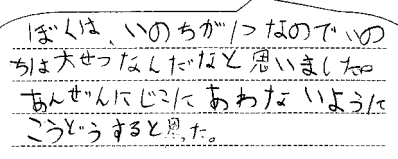
NO. 1

 みんなで どうとく 

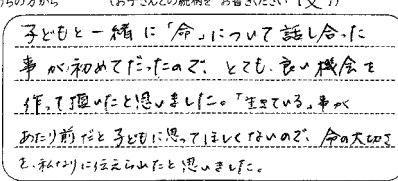
おうちのひと いっしょに どうとくの本を よんでみましょう。
そして おもったことや かんがえたことを おうちのひと おはなしてみよう。

3年		なまえ	
よんだ日	6月19日(土)	おはなしの だいめい	

おもったこと・かんがえたこと



おうちの方から (お子さんの続柄を お書きください【父】)



ありがとうございました。6月12日(月)まで郵便にて提出ください。

○ テーマを「命」に設定し、家庭で都合のよい日に実施できるように、提出日をゆとりをもって設定しています。

○ 3年児童の思ったこと・考えたこと

ぼくは、いのちが1つなので、いのちはたいせつなんだなと思いました。あんぜんにじこにあわないようにこうどうすると思った。

○ おうちの方(父)から

子どもと一緒に「命」について話し合った事が初めてだったので、とても良い機会を作って頂いたと思いました。「生きている」事があたり前だと子どもに思ってしまうので、命の大切さを私なりに伝えられたと思いました。

「みんなでどうとく」（道徳教材の親子読書）のすすめ

喜多方市立駒形小学校長 鈴木 基之

「優しくするのが気持ちのよいことだと理解していて嬉しいです。子どもが何かきちんと考えていることが分かり楽しい時間でした。」2年生の児童のお母さんの感想です。

この「みんなでどうとく」は、教員の授業研究などの研修と並行して、保護者やその他のご家族とともに道徳教育を推進していきたいという思いから始めたものです。

まず、ご家庭において保護者が「わたしたちの道徳」のお話を読み聞かせます。子どもは自由に感想を話します。保護者やご家族の方々には、お子さんの感想等を肯定的に受け止めていただき、その上でご自分の考えをお話しされ、子どもはその話を聞き、改めて思ったこと、考えたことを話すという流れです。何か結論を出すというものではありません。親子で、ご家族で「どうとく」を楽しく、しかし真剣に考えるととてもいい時間になります。

本校ではこの後、「ふくしま道徳教育資料集」も活用することを考えています。

